

お世話になっております。

この大型連休中に元号が「令和」に変わりました。

世間は祝賀ムードに溢れ、「昭和」から「平成」への改元当時を知る身としてはまさに隔世の感がありました。

皆さんはどのように新たな時代をお迎えになったのでしょうか。

さて今回は、現在制作中の当財団の Web マガジン「Traffi-Cation」夏号（7月完成予定）の特集についてお知らせします。

「Traffi-Cation」では、毎号巻頭特集として交通社会に関する様々な動きを取り上げています。夏号では輸送業界が直面する課題（人手不足、山間地や離島等での配送網確保）に対する解決策としてのドローンの可能性について焦点を当てます。

ドローンは昨年9月の国土交通省の基準改正により、機体へのカメラ設置など安全対策をすれば、補助者無しで目視外まで飛ばすことが可能になりました。

これを受け、福島県南相馬市と浪江町の郵便局間で、全国初の目視外飛行ドローンを使った荷物の配送実験が行われました。

*ご参考：当実験に関する日本郵便(株)のプレスリリース

https://www.post.japanpost.jp/notification/pressrelease/2018/00_honsha/1030_01_01.pdf
上述の特集記事作成のため、先般日本郵便に取材をしてまいりましたので、以下にその一部をご紹介します。

◆ 実証実験の狙い

ドローン活用を配送業務高度化の取組のひとつとして位置づけ、クルマや船と異なる従来にない移動体に対する社会的受容性を得ることとしています。現時点では、地域や住民にとってドローンに対するポジティブイメージ（安心、安全）が醸成されておらず、抵抗感が大きいので、実績を積み上げることでそれらを緩和することを優先したとのこと。

◆ 成果等

震災復興のために新たな取組を受け入れる意識の高さから、実験対象地域や住民の理解・協力を得られ、円滑に実証実験が行えたこと自体が大きな成果としています。加えて、運航に要する人員・業務（住民等からの事前承諾の取り付け、離着陸時の機体管理、運航時画像の伝送通信免許の取得）、小型無人機としての運送重量の上限、発着地点1セットごとに必要な運航ルート申請等々実務上のハードルの高さも確認されたとのこと。

上述の結果を踏まえ日本郵便としてどのような形で今後ドローンを活用していくのか、そしてドローン配送の将来性等、今回お伝えしきれない詳細につきましては、是非「Traffi-Cation」夏号にてご覧願います。

Web サイトへの掲載日程は皆さまに当メールマガジンにて事前にお知らせいたします。

過去の「Traffi-Cation」は WEB サイトにてご覧になれますので、以下 URL よりご参照ください。

<http://www.jaef.or.jp/6-traffi-cation/6-traffi-cation.htm>

日本自動車教育振興財団 メルマガ事務局

本メルマガへのご登録内容の編集・解除は、下記よりお願いします。

▼登録内容編集

<https://matomete-mail.com/bm/p/f/tf.php?id=149239601>

過去に配信したメルマガは、以下 URL よりご覧になれます。

▼バックナンバー

<http://www.jaef.or.jp/7-mail-magazine/index.htm>